

2016.9 清心人間生活/予想問題2

「障害者は社会の役に立っていないし、生きる意味はない。だから、彼らの人権を制限することも許される」という考え方についてどう考えるか（神奈川県相模原市の障害者施設での大量殺傷事件が提起した議論）。このような考え方の背景には何があるのかを指摘したうえで、あなたの意見を600字以内で述べよ。

重い障害を持つ人たちの人権は制限してもかまわないのか。これは2016年7月に神奈川県相模原市の障害者福祉施設で起きた大量殺人事件をきっかけに注目された論点だが、私はこの考えを否定する。以下、理由を述べる。

第一に、憲法は11条で「国民は、すべての基本的人権の享有を妨げられない」と規定し、例外を設けていない。この背景には、人類が長い歴史の中で獲得してきた「人は生まれながらに自由と平等の権利をもっている」という人権意識がある。私は「障害があるから」という理由で人権を制限することは、この歴史的な人権感覚に逆行すると考える。

第二に、設問の中にある「社会的に役に立たない」という評価に対する疑問だ。そこには「人間が社会を形成しているのはなぜか」という問題意識が欠如している。人は一人では生きていけない。多かれ少なかれ、助け合いながら生きている。極論すれば、社会は「弱者」（助け合わないという点では、ほとんどの人が弱者である）のために存在しているのだと私は考える。つまり、社会の役に立つために人が存在しているのではなく、人の役に立つために社会が存在している。あるいは、社会は強者のために存在しているのではなく、弱者のために存在している、ということだ。

相模原市の大量殺人事件を起こした犯人は、重い障害を持つ人を人間とみなしていなかった。しかし、人は存在しているだけで実は社会の一員だ。その証拠に、被害にあった人たちの家族の悲しみは健常者のそれとまったく同じだ。私は、どんな人でも存在している限り人権が保障される社会が理想であると考えます。